

マダラナニワトンボ

Sympetrum maculatum Oguma

トンボ目 トンボ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

選定理由

かつては羽咋や小松の近郊などに分布していたが、近年は生息地が志賀町や七尾市に限られ、全国的にも絶滅が危惧されている。

形態

腹長21~24mm、後翅長25~28mmの赤くないアカトンボ。黄色の地に黒斑があり、成熟すると黄色部は灰色がかってくる。

国内分布

日本特産種で、本州に分布するが、最近は見られなくなった地域が多い。富山県や福井県では、確実な記録がない。

県内分布

近年の確実な記録は、志賀町富来、七尾市の中島や能登島地区に限られる。過去に七尾市和倉での採集例があり、羽咋の寺家の松林の沼にかなり生息していた。その後、小松市の数箇所でも発見された。

生態

平地~丘陵の松林にかこまれた明るく浅い池沼に幼虫が育ち、成虫は9~10月を中心に活動する。成熟オスは水辺の松の枝先などに静止して、縄目を占有する。産卵は主に雌雄が連結した状態で、水際の泥や草の上を飛びながら行ない、打空型である。意外に移動性がある。

生息地の条件

沿岸部や丘陵の中の池で、明るく開けて浅く、堤防がコンクリートや防水シート張りでないこと。農業や廃水の影響がなく、強力な捕食者もいないことも要件。水量が安定し、夏に干上がらないこと。

生存の危機

池沼の埋め立て、改修、農薬の散布、付近の開発などが悪影響を与えている。池沼に植物が進入し、開水面が失われたり乾燥化する場合もある。廃棄物の投入や、アメリカザリガニの進入、ブラックバスなどの移入も問題である。もともと個体数が少ないので、小さな要因でも生存をおびやかされる。本種の多かった寺家の沼は、松林が伐採された後に放置されており、付近の開発が進み、現在は生息していない。安宅新の池も埋め立てられた。志賀町では主産地のため池のひとつが干上がっている。

(A, B)

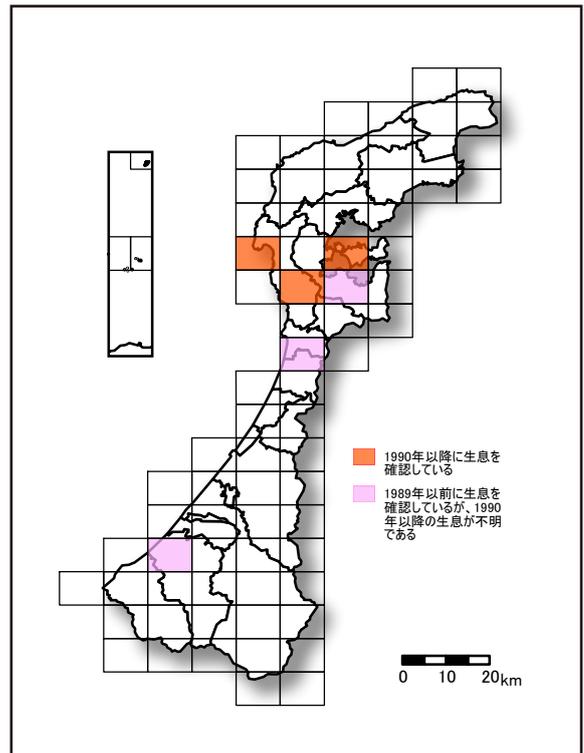
参考文献

武藤 明 2006. 石川県の蜻蛉目. とっくりばち, (74) : 7-19.

武藤 明 2007. 石川県の蜻蛉に関する最近の知見. とっくりばち, (75) : 24-28.



標本提供者: 武藤明



県内の分布